

海上の森講座

海上の森の意義、里山発見（現地講義）

日時：平成23年7月23日（土） 10:00～15:00

講師：木村 光伸（名古屋学院大学リハビリテーション学部長、教授）

概況



◎海上の森の意義

1. 里山とはどこか

里山とは農山村集落の後背地に展開する有用林であり、里山は農山村経済の自給部分を提供している。かつては人と森の結びつきが強く、人は森の恵みで生活していた。

2. 海上の森—里山を守る—(ビデオ)

海上の森は、名古屋市近郊にある広大な里山である。里山は人の手が加えられないと荒廃していく。人が森に手を加えることで里山の自然を維持することができる。

3. 海上の森の植生

海上の森にはシデコブシなどの東海丘陵要素植物群と呼ばれる特異な植物が生育している。これは、海上の森が、花崗岩と砂礫層2つの異なった地質から形成されていることが植生の秘密を解く鍵となっている。花崗岩は風化により栄養分の高い土壌が堆積するが、崩壊しやすいという特徴を持つ。一方、砂礫層は透水性が高く、貧栄養で植物が育ちにくいという特徴を持つ。花崗岩地域の断続的な崩壊と、砂礫層地域における遷移速度の遅さが東海丘陵要素の多産の要因となっている。

4. 自然は美しい

自然は美しいものであるが、そこでの生活は貧しかった。そのため、経済発展とともに

に、人々は自然から恵みを得る生活ではなく、自然から収奪することを求めるようになった。そのため、農山村は疲弊していった。つまり、里山の衰退は、自然の問題ではなく、生活の問題である。

5. 現在の里山

地域的輪(結びつき)が里を支えてきた。海上の森の会は里山に係わるひとつの試みとしてイベントを通じ、「里山から学ぶこと」、「里山にある楽しみ」などを広く住民に伝えてきた。しかし、それだけでは里は守れない。「人々の暮らし」、「里人の連帯」、「人の生存を支える自然利用の仕組み」、「人と自然の関係」、「自然それ自体のありかた」を保全する(守っていく)必要がある。

◎里山の発見(現地講義)

2時間ほど、実際に海上の森内を歩きながら、海上の森の植生と地形地質の関連、また歴史的背景と自然遷移について学んだ。